

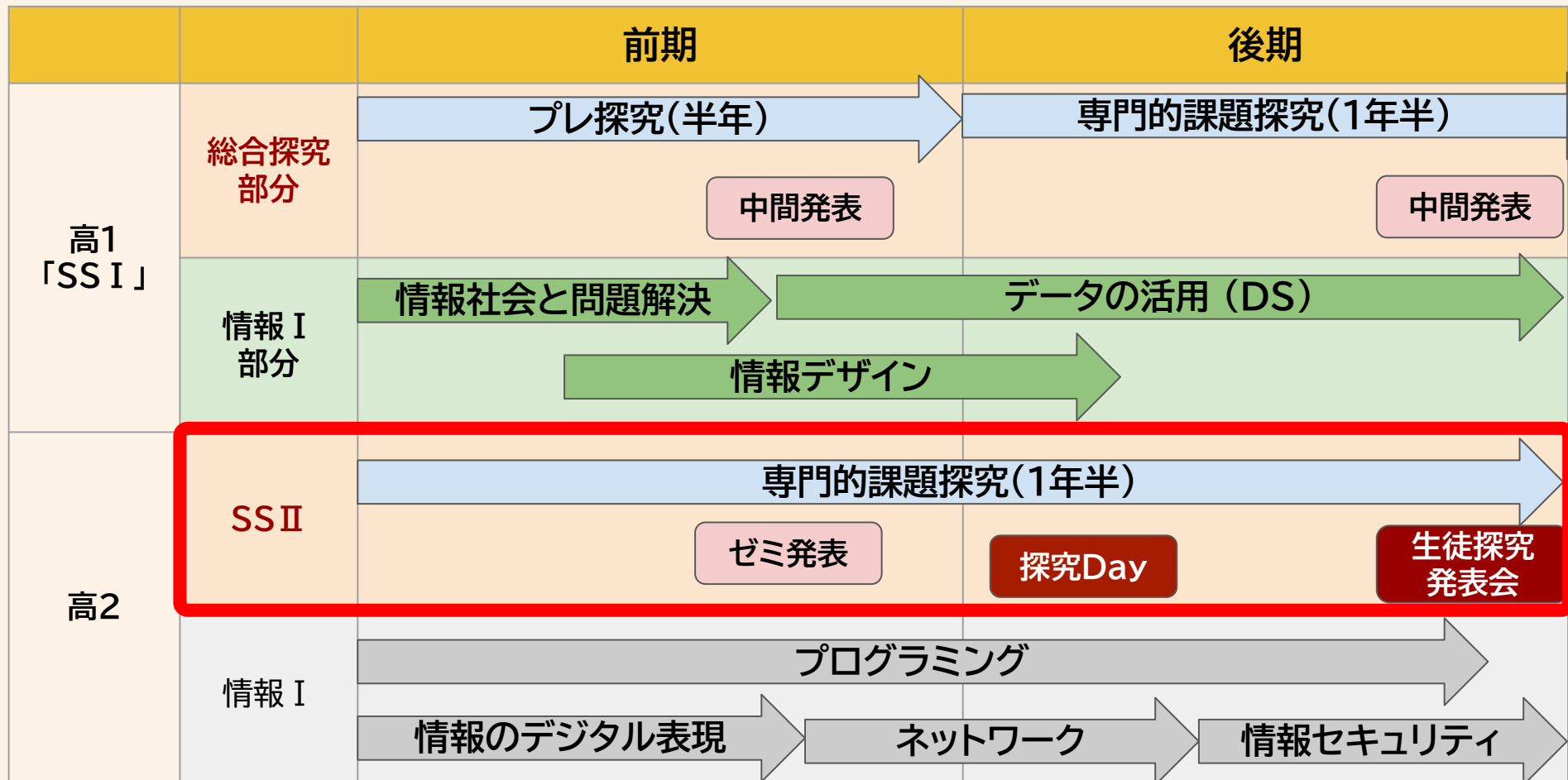
2026年度 SSH特設科目「SSII」

【第6回】 各自の研究活動

2026年5月28日（木）



高1・高2 年間計画 全体像



専門的課題研究のイメージ

STEP1

研究テーマを決める

STEP2

リサーチクエスチョンを導く

STEP3

仮説を立てる

STEP4

適切な研究方法を選ぶ

中間目標

研究計画書を作成する

STEP5

調査・実験を実施する

STEP6

結果をまとめて考察し、結論を導く

STEP7

研究内容をまとめ、発表する

より高次のRQへ

高1
中間発表

探究
Day

生徒探究
発表会

step1

振り返り

step7

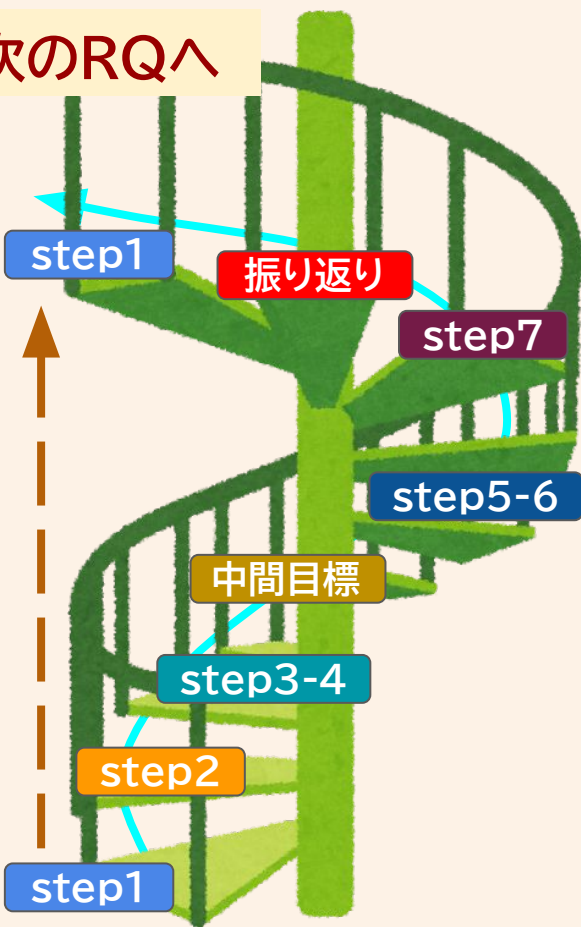
step5-6

中間目標

step3-4

step2

step1



ゼミ発表までの予定(普通教室系グループ)

5/21	木	ゼミ発表教室割発表
5/28	木	ゼミ発表要項説明 ① (スライド作成方法)
6/11	木	ゼミ発表要項説明 ② (評価)
6/25	木	スライド8割以上完成 → 指導教員に見せる
7/ 2	木	スライド完成 (これ以降は微調整)
7/ 9	木	リハーサル (原稿を見ないで話せるよう練習)
7/16	木	ゼミ発表

ゼミ発表教室割

発表教室	人数	発表チーム(10～11チーム／教室)										
1組	26	006	301	302	401	402	403	701	702	801	802	
2組	33	003	004	005	601	602	603	703	704	803	804	
3組	21	101	102	404	418	604	605	606	705	706	707	
4組	22	103	104	303	304	607	608	609	708	709	805	
5組	22	105	106	305	306	407	408	710	711	806	807	
6組	25	008	009	107	108	409	610	611	612	808	809	
7組	19	010	011	109	110	307	308	410	411	613	614	
8組	17	012	111	112	309	310	315	412	413	414	712	
情報教室	22	113	114	313	314	415	416	417	615	616	713	714
総合学習室	21	001	002	007	116	311	312	405	406	810	811	

発表スライド (★Googleスライド使用)

「シン・全ての教員・生徒が見られる共有ドライブ」内

自分のチームの「研究計画書兼報告書」が保存されているフォルダ

 920研究計画書兼報告書

自分のチーム番号

■Googleスライドファイルを新規作成

+ 新規

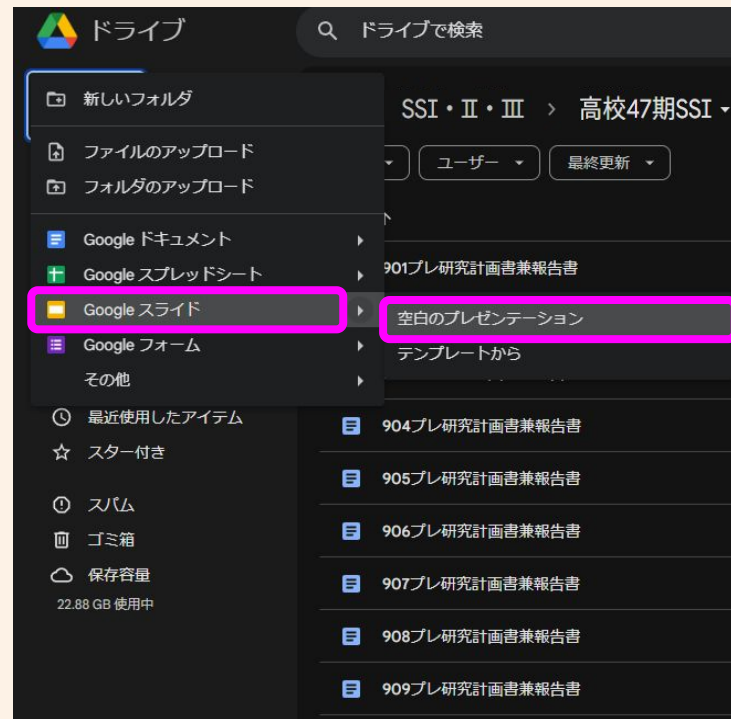


Google スライド

ファイル名:



920ゼミ発表



発表準備 スライド作成・発表原稿準備

タイトルスライドを入れて6~10枚程度

前年度：今年度 = 2：3

1

課題研究メソッド
p.142-144 ①

プレ研究計画書兼報告書
(1) 研究テーマ

生成AIの社会的課題

テーマ

チーム番号： 920

全員の 組番号 + 氏名

チーム番号

メンバー

この3つを必ず入れる

2

課題研究メソッド
p.142-144 ③

プレ研究計画書兼報告書
(2) 研究背景

研究背景

- ・ 初めて発表を聞く人に内容を理解してもらうために、背景となる現状と先行研究・事例を説明する。
- ・ 発表で用いる言葉の意味や定義、現状を表すデータ、先行研究・事例を紹介する。
- ・ これまでにどのような取り組みや研究が行われ、何が分かっているのか、何がすでに解決されているのかなどを説明する。

3

課題研究メソッド
p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書
(3)① リサーチエスチョン
(3)② リサーチエスチョンの整理

リサーチエスチョン

- ・ 研究に取り組んだリサーチエスチョンの内容とそれが生じた背景を示し、研究の目的を示す。
- ・ この研究で考えられる社会や学術への貢献、社会的な意義を述べることで、聴衆の注目をより集めることができる。
- ・ プレゼンテーションの導入部分として、「この研究は必要だ」、「面白そうだ」というように興味をもってもらえるようにまとめる。

4

課題研究メソッド
p.142-144 ④⑤

プレ研究計画書兼報告書
(3)③ 仮説

仮説と検証方法

- ・ リサーチエスチョンに対し、自分たちの設定した「仮説」(予想される仮の答え)をどのように設定したのかを説明する。
- ・ 先行研究・事例から根拠を持って仮説を示すことが大事である。
- ・ できるだけ複数の仮説を設定する。
- ・ どのような研究方法を用いてリサーチエスチョンの解決に挑むのか、具体的に述べる。
具体的でない例：「インターネットで調べる」、「アンケートを行う」

5

課題研究メソッド
p.142-144 ⑥

研究計画書兼報告書
(4) 研究方法

研究方法

- ・ どのような研究方法を用いてリサーチエスチョンの答えに挑んだのかを具体的に述べる。
(「本で調べた」「アンケートを行った」だけでは不十分)
- ・ ここで時間を割きすぎないよう、端的に述べる工夫が必要。
 - 順序を箇条書きにする。
 - 図や表を用いる。

6

課題研究メソッド
p.142-144 ⑦⑧

研究計画書兼報告書
(5) 研究結果
(6) 考察・結論

結果・考察／結論

- ・ 研究手法を実施した結果得られた定量的データ、定性的データをまとめ、考察・分析をくわえ、リサーチエスチョンに照らして、分かったことや分からなかったことを説明する。
- ・ 聴衆が理解しやすいように、スライドを工夫する。
 - 図や表などの活用
 - 注目して欲しいポイントを色線で囲むなど

最終スライドにて、本発表で引用・参照した文献をまとめて示す。

※詳細は課題研究メソッドp.176－177

- **本(日本語):** 吉川俊哉 (2011). 『大学とは何か』 岩波書店.
(著者) (発行年) (書名) (出版社)
- **論文(日本語):** 中野由美子 (1974). 「階層と言語 教育社会学における言語研究の位置づけ」
(著者) (発行年) (論文のタイトル)
『教育社会学研究』 29(0), 146-160.
(雑誌名) (巻数・号数) (論文のページ)
- **Webページ:** 文部科学省 (2012). 「大学改革実行プラン～社会変革のエンジンとなる大学づくり～」
(作成者) (公開年: 不明な場合は省略可) (Webページ名)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/022/shiryo/icsFiles/afieldfile/2012/09/19/1325116_7.pdf
(URL)
2020年11月2日.
(アクセス日)

スライドチェックリスト + 支援Gem

SSII 専門的課題研究 ゼミ発表 スライドチェックリスト

チーム番号	確認	項目
本文		タイトルはその研究の内容を適切に表しているか？
		所属・名前が明記されているか？
		導入となる序論や研究背景が示されているか？
		一般的でない言葉や、意味や定義があいまいな言葉を説明しているか？
		リサーチエスション（問い）は示されているか？
		仮説が根拠とともに示されているか？
		研究方法が具体的に示されているか？
		用いる研究方法是仮説の検証やリサーチエスションへの回答に適切か？
		引用文献・参考文献を各スライドに示したうえで、最後に正しくまとめているか？
		論理の流れがわかりやすいか？（ストーリーの一貫性）
		スライド1枚あたりの情報量は適切か？（詰め込みすぎでないか）
		発表の時間に対して、スライドの枚数や長さは適切か？
		不快な表現や差別的な表現が使われていないか？
		全体を通して何を伝えたいかが明確になっているか？
体裁		誤字・脱字がないか？
		フォントの種類が統一されているか？
		フォントの大きさは適切か（後方から見えるか）？
		「半角数字」と「全角文字や単位」の間に半角空白を入れているか？
図や表		図や表の活用、デザインも含め、見やすいものになっているか？
		図や表に番号・キャプション（説明）をつけているか？
		グラフの縦軸、横軸に名前をつけているか？
		軸の単位が書かれているか？
		凡例（図の中で使用する記号の意味を説明するもの）が示されているか？
		図や表の説明が本文（口頭説明を想定したスライド内）でなされているか？
		引用先（出典）を明記しているか？



研究発表スライド作成支援
Gem



研

研究発表スライド作成支援

スライドをPDFファイルとしてダウンロード
→ 「**ファイルをアップロード**」でPDF添付



ファイルをアップロード



ドライブから追加



NotebookLM



ツール

025ゼミ発表

PDF PDF

この研究発表スライドの評価をしてください。|



Canvas x

支援Gemを活用するうえでの心構え

【AIの特性：思考のパートナー】

- ❖ AIは「正解」を出す道具ではなく、**思考のパートナー**である。
- ❖ 研究の背景や込めた思いなど、見えない文脈はAIには読めない。
- ❖ 内容を最も深く理解しているのは、自分たちと指導の先生である。

【人間の役割：主体的なブラッシュアップ】

- ❖ AIの助言を鵜呑みにせず、最後は自分たちの責任で判断を下す。
- ❖ チェックリストは最低限であり、その先の質こそが重要である。
- ❖ 指導の先生に助言を仰ぎ、**自らの手で「納得の答え」を創り出す**。

「探究ノート」への記録を！

Classroom 「【全般】 探究ノート」

高校46期 SS I・II (総合探究)		探究ノート					
チーム番号		クラス	1 -	番号		氏名	
共同研究者							
↑ チームメンバー全員の組番号と氏名を記載 (例: 640 芝浦 太郎 710 柏 花子)							
【日々の活動記録】 (①を授業開始時に、②③を授業終了時に記入)							
日付	活動記録 ①今日の予定・目標 ②本日の活動内容 ③次に行うこと、次までに行うこと						
10/23	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
10/30	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/13	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/20	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
11/27	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						
12/4	①今日の予定・目標 ②今日行ったこと ③次に行うこと、次までに行うこと						

★作成のポイント★

毎回、**活動記録**は必ず書く！

①今日の予定・目標

授業開始時

②本日の活動内容

授業終了
5分前

③次に行うこと

個人でまとめるワークシートで、
その他の使い方は自由です。